



第 十 四 卷 第 四 號

學齡前兒童の發達と教養(三)

文學士 入 澤 宗 壽

四、個性化の時期 (四歳より六歳まで)

此の時期の特質、前の時期即ち二歳の始めより三歳の終りに至る模倣及び社會化の時代に於けると同じく、この時期中也社會的影響は著しいけれども、此の時期に至つては前よりも多くの人々と相觸接し従つて發達の方向が幾分變つて來る。兒童は自然及び社會的環境から精神的材料を甚だ多く集め來つてそれが意識的自我に組み込まれる兒童は今や事物や人間から獨立して自分の精神生活を支配し想像に於ても實際に於ても出来る丈け愉快で調和的な意識状態を得るために、獨立な人間として自分の地位を占めて來る。固より精神生活多くの點に於て他人と共通な處があるけれども、その大部分は自分自身のものとして所有して來る。彼は最早や單に他人のすることを模倣するので無く、模倣する事、取り入れる事について取捨撰擇を施すのである。なほ進んで自分の精神状態を他人に印象しやうとするに至るもので、それが他人のを受け入れるよりも一層興味を感じて來る。これを要するに此の時期に至れば、兒童は家庭の自然的及び社會的遠境よりも一層

廣い環境に接して來て、前の時期よりは大に完全に僻性的人格として精神的組成と人格と發達をなし遂げるのである。

兒童は自然の稟賦といふ點からいへば最初から個性の大部分を所有して居るのであるけれども、此時期に及んで一層意識的に其精神的個性を變化し發展するのである。かくして此時期の終りに著しい精神上の特質は青春期に入る迄變らないほどに完全に個性を發展して來る。六歳の兒童は三歳の時より全く變つて居るが、十二歳の兒童は六歳の時と殆んど同じい特質を備へて居るのである。**自己主張**。新意識的人格が個性化されるためには兒童はいつも他人の精神生活を分ち取らないので獨立に行動し、自己流にその經驗を組織しなければならぬ。これが三歳に近い兒童に於て一層獨立的になり、多かれ少かれ一般に反抗心を現はして來る理由である。

時としては個性が何等他人との衝突なしに發達

することもあるけれども、大部分は衝突する時期があり反抗が屢あらはれて來るものである。勿論これは兒童の健康がすぐれない時や又は欲求が他人から妨げられると何時でも此の現象は起るけれども、健康な兒童でも此の時期には反抗があらはれて來る。これまで兒童は他人を模倣し、その示唆に従つて來たのであるから、此の時に表はれる個性的自我が共通自我の中に失はれて仕舞はぬためには反動が必要であるやうに思はれる。それ故に一層意識的の形に於ける自己主張の本能が活動的になつて來て、他人がなす如く將た他人の命する如くに行動しないで、幾らか違つた事いな通常は反對なことをやり又は稀には何もやらないといふ様になる。かくて兒童は反抗や片意地を通すのであるが、通常この時期に現はれる片意地は前時代に於て模倣的暗示で導いて行くやうに、反對の暗示でうまく導き得るものである。

兒童と周圍の人との關係が一般愉快であり又共

通の意識がうまく發達する場合には此反抗時期は短くてすむもので又かくある可きものである。かかる状態の下に於ては、兒童は自分の經驗から、爲ていゝ行動と爲てならぬ行動とを發見し、感情の個性は或範圍の下に自由の行動を許され、自身の自然の趣味と傾向に於て行動し發達する。意識的の個性が無意識な性來の傾向から發達し、習慣と前時代の共通意識とを得て、意識的自我が他の矛盾衝突なしに家族の共通意識の分化せる部分自然的部分として發達して來る。

此の時代に於ても尙ほ他人を模倣はするが、それが他人の目前でなく、他人の居ない場合に多く模倣するやうになる。かくして個性を擴張し自己選擇と自己支配といふ事を覺えて來る。

併しこういふ發達は家庭の状況がいゝ場合に於て見るところのもので、多くの場合には、たとへて共通意識がうまく發達しても、又兒童の人格が單にその時々他と衝突するに過ぎないにしてもこ

の意識的個性發達の危機に於ては、兩親の人格と兒童の人格との間に大なる衝突が起り意識の共通を破り多少の永續的矛盾を残すものである。この現象は、一部は兩親が此の時期を以て服従を教へる時期だと心得、兒童の好愛と遊戯とに反對な方向を強ゐることに基いて居る。兩親は賞罰を以て兒童を服従させる事は出来るが、それがために前の時期に社會的手段によつて與へた影響を殆んど無くして了ふ。且兒童はこれに依つて賞賛と非難との外は何も注意しなくなり、進んでは結果のみに注意し、結果さへ苦痛でなければ非難でも喜んで受けるといふやうになる。

前の時代に於ては兒童の感情生活は家庭の影響によつて強い印象を受けるが、この第三の時代に於ては活動的意志特性の基礎が形成せられ權威に對する一般的態度が決まる。兒童は茲に自分に對して期待される事柄を知り、その期待に合して行べふきか、反對して動作すべきかといふ行爲の觀

念を形成して来る。

兒童に共通の意識を保ち而も同時に個性をして自由な意識的な發達をさせるには、非常な賢明な取扱が必要である。此の取扱の詳細に立ち入ることは茲に出来ないけれども、一般的注意を列擧して見れば次の如くである。

(一)前時代の無意識的習慣中で望ましいものはよく保存しなければならぬ。(二)共同意識は兒童をして共同目的に對する共同作業をさせることに依つて支持しなければならぬ。(三)兒童が自分の經驗で行動の結果を知り得る様な機會と共に撰擇行動の自由を許してやらなければならぬ。(四)兒童が自己及び他人の安全幸福のために爲なくてはならない事に對しては、自然力なり人間の影響なり、また間接直接の賞罰を以て導かねばならぬ。
自己と他人の意見。此の時期に於ても言語は、前時期に觀念發達のために重要であつた如く意識的個性の發達に重要な働をなすものである。兒

童の行爲についての名稱が與へられると、それが意識の中に著しい地位を保つて來、特質の知識が進むほど行爲の種類も増して來る。故に望ましくない特質の名稱は出來る丈け知らさせないで置き、望まじき行動は了解が出來る丈け早く名を教へてやるべきである。フレーベルが望まじき特質の名を與へることを兒童教養の重要な手段としたのは甚だ正當である。

かく名稱を與へて明瞭なる意識に上す外に、その特質が、周圍の人の言語や行動により現はして傳へる事が出來れば、一層有効である。前に見たるが如く、兒童は前時代に於て事物に對する觀念を他人の意見によつて形成するやうに、この時代に於て、自己の個性に對する明瞭なる意識に到達したとき自己と他人の行動の差異を考察するよりも他人が自分及び他人に對して爲した行動によつて支配を受ける。例へば他人が自分を卑怯だといへば卑怯になり、他人が大膽だといへば大膽な行

動をする。それ故に、兒童の前で兒童の事を話すのには餘程注意しなければならぬ。

希望と理想、此の個性化の時期に於て割合に早く兒童は理想を形成し始める。それは單に好愛するもの、欲求するものについて計りでなく、希望し願望するものに就いて形成する。これらの理想は理想上兒童に愉快に思はれるもの、經驗で學んだもの、両親から教はつたもの、或は賞賛と聯想したもの等色々である。想像上、兒童は凡て欲し

い物の所有者となりそれを得る力も特質も凡て持つて居るものと思ふ。經驗に依つては所有、行動存在の可能について幾分知つて來るが、周圍の人から聞いた誇張の結果をも信じて居る。此の初期に形成せられたる理想は兒童の行爲及び發達に大なる影響を及ぼすものである。固よりこの理想は絶えず變化し又何時も行動を支配するといふのは無いけれども、青春期を除いては此時期ほど理想の影響が大なる時代はないのである。(未完)

多様にして統一ある一時限の保育實況

神戸市私立信成幼稚園長 日野清子

去る三月六日京都より橋崎先生が心理學講習の爲御出張あそばされました折柄、當園に御出で下さいまして親しく保育の状況を御視察下さいました。其の時に胸圍の狭き幼児松組の保育を見て戴きましたが、思慮ある保育の仕方だから其實況を書いて出せよとの仰せでございました。經驗目猶淺く、到底皆様に御覽を願ふ程の事でもありませんが、先生の折角の仰せでございますので以下當園の狀況の一端を申し上げ併せて當日先生に御

覽を願ひました室内保育の順序を概略茲に認めまして皆様方の御批評を御願ひ申します。

一 保育の一般方針

伊太利のモンテッソーリ女史が感覺的方面に於て個人的取扱をなして大なる成功をなし、廣く世

を個人として大なる成功をなし、廣く世